

連載：原点

「自ら考え試行錯誤することの大切さ」

市川工業高等学校 高橋 良太

私は、市川工業高校に初任者として勤務する前は、講師として私立の中高一貫校に5年、公立の中学校と高校にそれぞれ1年間ずつ勤務しました。どの学校も大変なことや苦勞することもありましたが、同時にやりがいを感じることも多く、とても良い経験をさせていただきました。本校に初任者として赴任して約4か月が経ちましたが、あっという間の1学期でした。私は今まで進学校の経験が多く、とても苦勞したと感じています。特に数学が苦手ややる気のない生徒に対して、どのように指導をすればよいかということを常に模索してきました。そこでこの1学期は「生徒をいかに授業に参加させ、考えさせるか」を目標に授業を行ってきました。具体的には、発問を多く取り入れ生徒に考えさせる時間を作ること、グループ活動の中で自分の考えを整理し相手に伝えるなどといった生徒が参加できるような授業を主に実践していました。そこで感じたことは、複雑なことを考えようとせずにすぐに答えを求めてしまったり、自分で整理をしない状態で相手に説明したりする生徒が多いということです。数学は答えを導くことよりも、その思考プロセスが大切であり、そこを省略している生徒がとても多いことに気づきました。私はこの現状を知り、2つのことを生徒に伝え続けています。1つ目は、思考力が必要のない職業は無く、どの職業でも「自ら考え試行錯誤する力」が必要であること、2つ目はAIは0から1を生み出すことは出来ないが、人間には0から1を生み出すことが出来てそこに人間としての価値があること、そしてその土台として「自ら考え試行錯誤する力」が必要であることです。この力は今後、一層求められる力です。数学を通じてこのような力を培うことが出来る授業を実践していきたいと思います。私自身が講師経験も含めて一番心配な生徒や助けてあげたいと思わせる生徒というのは、数学が苦手な子でも反抗的な子でもなく、「思考力や生きる力が身についていない生徒」です。そのような生徒が例えば数学を通じて思考力を培い、自分で生活出来るまで成長できたとしたら、それは教員の仕事としてとても価値があることだと私は思います。時には良いことだけでなく現実を伝え、生徒に考えさせる時間を与えることも教員として必要なことであると感じています。そのために、私は今後も目の前にいる生徒に対して、「自ら考え試行錯誤する力」の大切さを伝え続けたいと思います。初任者として分からないことや苦勞すること多いですが、そのようなときには、先輩の先生に相談してアドバイスを頂いたり、初任者研修を通じて自分の力を高めるなどの努力を続けていきたいと思っています。